

核兵器。それは、人類を破滅へ導く恐ろしい武器。この世に絶対あつてほしくない。人間は、自分達で、人類破滅の道具を率先して作っている。このまま核兵器を作り続け、いつか地球が核兵器にうもれた時、地球は透きとおるような青色を失い、茶色に染まっているだろう。核戦争への道をたどるより、早く気づいてほしい。平和を手にする喜びに。

平和な世の中の実現を！
世界中に響かせたい。それは、原爆で死んでいった多くの人々の願いであり、私達の将

平和について

日光中三年

宇塚 晴由



憲法九条に、戦争の放棄について掲げてありますが、
「平和な町にするためには、みなさんならどうしますか。」
と尋ねると、大部分の方々からは、
「戦争や暴力を追放しよう。」
と簡単に答えが返ってくるでしょう。簡単に

来の夢でもあるのだから、なおさら声を大にしたい。

「平和は人類最高の理想なり」

これは、ドイツの文学者、ゲーテが歌った詩である。「人類最高の理想」という言葉の中に、それだけ実現も難しいという思いもこめられていることが、強く感じられる。

人類が、自分達の手で、平和を獲得するためには、まず、地球上から、あらゆる核兵器を廃絶させることが、私達に、理想の平和をよびこむ、最大の近道であることを、忘れてはならない。

返ってくるほど、日常的に平和ということが身に付いてしまったのでしょうか。

ついこの間、米ソ首脳会談が行われ、東西の巨匠が何パーセントかの核をなくそうということでした。僕がこのことでも考えたのは、米ソ両国だけでなく、もつと多くの国を交えて、再度、国際連合で話し合っ

ほしかったということでした。

一九四九年、パリの世界平和擁護大会で、核兵器の禁止を訴える署名運動があり、国境をこえ、平和運動が始まり、日本でも、広島で、原水爆禁止世界大会が全国的に行われています。このような事がおきることはとても喜ばしいことですが、原水爆禁止や、戦争の放棄だけが平和でしょうか。もつと身近に、平和にすることがあるのではないのでしょうか。私達の学校では、同和教育・福祉教育と、いろいろ活動をしています。ここで二つ考えられることがあります。それは、「心の平和」

と「人間的ふれ合いの平和」というこの二つです。

人間的ふれ合いの平和とは福祉教育を通して障害者の方々が安心して過ごせる町づくりを主張することです。積極的に僕ら、健常者が障害者の方々とふれあい、一日一日が楽しく有意義に過ごせる平和です。

心の平和とは、差別や、偏見をなくして、より良い社会を作ろうという平和です。特に今年、私達の学校では、同和教育研究発表ということに恥ぬよう、認め合いそして、学び合い、最後に高め合って人と人とが腕を組めるように、という平和です。

平和を作ろうと呼びかけても、結果的には自分自身が、強くなって取り組まなければ、何の意味もなくなってしまうわけです。ここに、アインシュタインのこのような言葉があります。「私の平和主義は本能的な感情です。それは、殺人は胸を悪くするほどいやなものだという理由から私をとらえている感情です。私の態度は、いかなる知的な理論からできてきたものではないのです。それはあらゆる種類の残虐と憎しみとに対する私の深い反感に基づいているのです。」と、

すなわち、平和を愛することは、本能的感情だが、進んで理論化する必要はないということでした。

それにはまず、自分の心の中を整理し、自分を平和にすることです。その平和を自分なりに理論・解釈をします。それが周りの方々の意見と重なり合い、一つの大ききまとまった平和に成り立つと思います。